

ティータム

最近の活動から

食5一文 辻 郁子

少し前、久々に新聞のコラムで評論家犬養道子氏の文に接しました。厳しい評論かと読み始めたところ、ご自身が介護を受けられた体験から、誰にでも温かくお世話する日本の若者に希望を持つという内容があり、ほっとしました。

「人間同士は常に対等、憐れまれて喜ぶ人はいない。」とも。

そして、幼いころの思い出として次のようなことが述べられていました。

年末になるとお母さんと一緒におみやげを持って近くの施設を訪れた。おみやげというのは、犬養さんが大事にしていた人形やおもちゃ。どうして...と思ったとき、お母さんは「人の役に立ちたいと思うなら、自分も少しは痛い目にあわないと」と言われたそうです。

さて私たちはささやかなボランティアをさせて頂いています。人形劇を通してのふれ合いは楽しいものです。自分も少しは痛い目に...。ウーン、そんな思いはあまりなく訪問しているなぁ。

そんなことを考えていたとき、この前出会った学園の子供たちのことを思い出しました。学園の催しのお誕生会に呼ばれたときのことです。多動なお子さんが多いと聞いていたのでどうなることやと心配していました。舞台裏に来たり、人形を持って行ったりするのでは？

行ってみると、子供たちの安全の

ために各部屋は引っかけの鍵がされていました。なかなか大変だなあと思いましたが、入った途端、そこに流れる温かい空気を感じました。先生方もお誕生会に参加されている保護者の方も皆明るいんです。

さぁ、お誕生会が始まりました。なかなか静かになりません。思い思いに動き回っています。でも園長先生はじめ皆さんにここに。

続いて人形劇です。

おむすびころりん(わいわいがやがや)。むかしむかし(わいわいがやがや)。

ちゃんと聞こえたかなあ。楽しんで頂けかなあ。そんな思いで帰りました。

その後しばらくして園長先生からお手紙が届きました。明るさの源がありました。

「子どもたちは、それぞれの楽しみ方をしていました」

この言葉に感動しました。

「みんな違って、みんないい」...近ごろよく目にする金子みすゞさんの詩の一節ですが、本当に私たちは違いを認めて人を尊重しているのでしょうか。ボランティアって学びの場だなあとつくづく思います。

犬養氏の「自分も少しは痛い目に...」という言葉にも深い意味があるようです。

人形劇を観せるではなく、観て頂くという謙虚さを忘れず、これからも仲間と共に温もりと優しさとユーモアを届けていきたいと思ひます。

園長先生からお便りを頂いたのが嬉しく、思わず書いてしまいました。



ほたる座の皆様

神戸市立のばら学園長

三宅 芳宏

人形劇公演について (お礼)

先日は、のばら学園誕生会におきまして、楽しい人形劇をしていただき、ありがとうございました。

子どもたちは、引き込まれるように集中して見ている子もいれば、人形や舞台装置が気になって見にいたり、落ち着いて見る事が出来ない子もいましたが、それぞれの楽しみ方をしていました。普段、友達とよくけんかしたり、走りまわりますが、本当に真剣な表情で見入り、自分から手拍子する場面も見られて、職員はまた新しい発見をしました。またある子は、劇を見た夕方、お母さんに「おむすび作って」と頼んで、ヘルメットを穴に見立てて「おむすびころりんすっとん」と楽しそうに遊んでいたとの報告もあり、とても印象深かったようです。一人ひとりの子どもたちの中に楽しい場面や歌がきつと残っていることと思います。

また、ほたる座のメンバーの方々のはつらつとした姿に、子どもたちだけでなく学園職員も元気をいただき、心暖まるひとときを持つことが出来ました。

今後とも、よろしくお願い致します。

楽しい公演を本当にありがとうございました。

よろしければどうぞ

シルバーカレッジで3年間学んだ後ボランティア活動に励んでおられる“わ”の皆さまは、いまさら？と思われるかも知れませんが、これまでなんとなくやってきたけど、自分のしていることの基本と意義をしっかり理解しようという人にぴったりの本が事務局に1冊寄贈されました。ボランティア情報研究会編 学習研究社刊「熟年だからボランティ

ア！」です。堀田力さんによる「まず肩書きを外そう」から始まって高齢者福祉、リサイクルショップ、観光ガイド、IT 技術など専門性を生かした活動、海外日本語ボランティアまで、さまざまなNPO やボランティア団体の情報、活動の様子が詳しくわかります。お貸ししますので、事務局に立ち寄られた際にお気軽にお声を掛けてください。

